（昭和33年3月18日第三種郵便物認可）

新潟縣 公民館月報

昭和39年8月1日（毎月1回1日発行）
発行所　新潟県公民館連絡協議会
〔新潟市一番堀通町・県教育庁社会教育課内〕
〔電話（新潟）(65)5511の624〕
〔振替（新潟）4094〕
発行人　飛田一郎
（定価　1部15円）

8月号（138号）

被災公民館

復興へ力強い第一歩

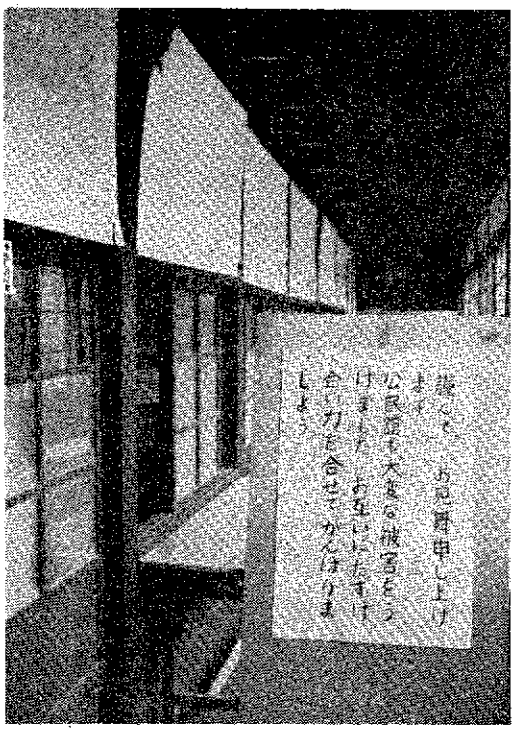
義援金第一次分を贈る

地震後二ヶ月になった。被災地区の復興ぶりはめざましい。下越一帯の被災公民館でも、傾き、壁の落ちた館の使用制限をしたり応急手当を加えたりしながらも、ほとんどが開館にこぎつけている。

概況の先般文部省係官が視察した十八館の被災公民館は、その後県社会課において被害状況をまとめ、関係方面へ被害見積りを提出していたが、八月十一日から四日間にわたり、再度文部、大蔵両省から係官が来県、実際に現地調査のうえ復旧補助の査定をすることになっている。

一方、本会が募集した、公民館関係者への義援金も、かつてない集まりぶりで、七月末現在で十万円を突破、さる七月二十五日の役員会で配分について協議した結果被害額が十万円以上の被害者八十余名に対し、とりあえず一率一千円を贈呈することとし、第一次送付を終っている。

× ×



【水原町公民館玄関の掲示】

県公民館大会は10月4・5日に決定

新潟地震のため、無期延期となっていた県公民館大会は、7月25日の理事、主事常任幹事との合同会議で新潟地震の教訓を生かしながら10月4（日）・5日（月）高田市で開催することに決定した講師も当初の予定どおり前文相、森戸辰男の快諾をえている。

なお申し込み期限は9月25日に改訂された。

本県の四館にも施設費国庫補助

最高は二五〇万円が二二館

文部省社会教育局では、過般来昭和三十九年度公民館施設費補助の交付市町村を選考中のところ、第一次分として本県の四館をふくむ九七館を内定した。

補助額は最低一〇〇万円、最高二五〇万円と五〇万円刻みの四段階にわけ、一〇〇万円頭打ちを解消したが、第一次分の内訳はつぎのとおりである。

構造別……木造四四館、ブロック……二一館、鉄筋三二館

工事費別

補助金一〇〇万円……四〇〇万円以上六〇〇〇万円未満・四一館

補助金二五〇万円……六〇〇万円以上八〇〇〇万円未満・二六館

補助金三〇〇万円……八〇〇万円以上二、〇〇〇万円未満・八館

補助金二五〇万円……一〇〇〇万円以上・二二館

新潟県　四館（　）内は補助金交付額

荒川町（二五〇万円）神林村（二五〇万円）、西山町（一五〇万円）、青海町西町（一五〇万円）

北海道七館　青森県四館　岩手県六館、宮城県三館、秋田県六館、山形県四館、福島県四館、栃木県二館、群馬県一館、埼玉県二館、千葉県五館、石川県・館福井県二館、山梨県二館、長野県一館岐阜県一館、愛知県五館、三重県一館、滋賀県一館、大阪府一館、兵庫県一館、奈良県二館、和歌山県一館、鳥取県一館、島根県一館、岡山県一館、広島県四館、山口県一館、徳島県一館、香川県二館、愛媛県二館、高知県三館、福岡県三館、佐賀県一館、熊本県二館、大分県三館、鹿児島県三館

（全公連通報）

× ×

本号は4ページ

―お願い―

災害発生以来、本紙からの依頼原稿をはじめ、一般の寄稿もとだえがちです。復興途上の多忙のさなかに執筆をお願いすることも心苦しいことですが、しかし、こんなときにこそ生きた理論と実践が必要なのだと思います。いろいろご寄稿をお待ちいたしております。

（編集部）

8月の歴史

パスカル

―1662年8月19日、この日死んだフランスの哲学者、科学者人間存在の矛盾を解決しうるものはキリスト教のみと覚って、学問をすてて修道院に入った。実存主義の祖とされる。

× ×

人間は一本の葦にすぎない。自然のうちで最も弱い葦にすぎない。しかし、それは考える葦である。これをおしつぶすのに宇宙全体が武装する必要はないひとつの蒸気、一滴の水も、これを殺すに十分である。しかし宇宙が人間をおしつぶすときも人間は彼を殺すものよりも高貴であろう。なぜなら人間は自分が死ぬことを、宇宙が力においてまさっていることを知っているからである。宇宙はそれを知らない。だからわれわれの品位はひとしく、考えるということにある。……それゆえよく考えることに努めよう。そこに道徳の原理があるのだ。（パンセより）

今後の公民館の盲点と焦点

―十年の歳月のうちから―

家田三郎

「盲点と焦点」という言葉、田舎漢たる私にはひどくつよい言葉であった。この言葉の持つ意味通りにクローズ、アップされた言葉だと思った。

自分勝手なことを書いて、投書する私は、この言葉をいただいて、「グッと胸に来た」とも申すべく十二年間の公民館生活が実に大きく吹きとばされてしまった感じであり、大げさにいうならば短刀をつきつけられた思いでもあった。

盲点とは何だろう。何を盲点として上げることが出来るだろう。沈思黙考。「社会教育関係ばかりでなく、いろいろの書籍を読む。講演をきく。研究会に出る。座談会に出る。そして、いろいろと了解する。ああ、大体のことがのみ込めたな」と思う。そのことが第一の大きい盲点なのではないかと気がついた。いわば、「われ、世に勝てり」と思った時、その時、「われは敗れたり」となる、そういうことではないかと気がついた。だから盲点は実に次の盲点へと気がついていかねばならないものの様に思った。

こんなことを考えているときりがないし、自分にも判らなくなって来るので、無理に「オペレーション、リサーチ」を取り上げて見たくなった。戦時中にもこの「O・R」が問題になったが、東条閣下は日本には「大和ごころ」があるから不要だとしたとか、今この「O・R」が流行して、事務管理とか、公民館活動にも取上げられているときく。この「O・R」によって、庶民の「ココロ」を知り、それに見合った活動をする。すなわち自働制御の思想もあるのだときかされるが、この（O・R）に絶対の信頼をおくんすればやはり盲点となろうか、むしろ「リサーチ」をやる時にお互に話し合うことに意義をおくべきだと思う。

実に公民館は指導者だろうか。指導者と自認すれば、それも盲点になるだろうと思う。

さて、盲点は欠点だろうか、そう考えて来ると難しくなるが、現代の公民館が戦後日本にはじまった時、しかもその店も、庶民に公民館とは如何なるものかということが理解されて来たろうか、指導者の多くは、はっきり理解していると自認しているだろうが。とまれ、私の結論は庶民にとって、公民館そのものが、盲点なのだと考えられて来た。すなわち今後の公民館の盲点は、公民館そのものであろうと申し上げたい。

焦点についてもまた、どんなことを考えるべきだろう。目的と違うものだろうか。

活動という点から考えるとどうしてもその方法に焦点が集るだろうと思う。心が違っても、それを揺わす方法は似たものではないのか。心は今、大別して、西と東とその中間と勝手にきめられるだろうし、きめぬとすれば、人間一人一人の雑多な心となろう。また、幸福をめざすということであれば、心は一つともなるかと思う。だからそれに向ってすむ方法に問題があり、公民館では青少年問題とか、家庭教育とかとなり、それが訪問集会という方法になったと思う。

さてどんな方法が今後の焦点になるだろう

この方法の発見こそは世の指導者の心を労する問題であったし、そのことによって、その人の手腕が認められ、有名となり、そのために、毎年新しい方法が提出されてわれわれ田舎漢はとまどったこともあった。

違う道かも知れないが、「シャカ」「孔子」「キリスト」はどんな方法をとったか。「愛」とか、「無」とか、「一視同体」とかの思想から、それを説く方法には、百万人の話合いとか、ストーミング、バズセッション、六六式ではなかったか、今も昔も同じようなことだった。マイクがなくとも八万八千人に講義が出来たのはマイクのある現在のわれわれと同じことだ。ここでワキ道にそれて申し上げたいが、日本の古墳時代に、孔子様の教えがはいり、それから三百年もして仏教が日本に来たのだ。だからわれわれ日本人の古い古い心に儒教があるように考えられるし、案外、農本主義や神代の思想がこの中国の思想であったのかも知れない。更に中国から儒教や仏教が日本に伝来するのには吉き朝鮮のおかげのあったことを忘れてはなるまい。真の大乱心があるのだろうか。

元へもどって私の焦点、「努力して普通の人になる」ことを目的として、その方法は、毎日一度は公民館へ行き、雑とも話をし、手当次第のものを見るということである。そして本田局長からタオルをいただく。（前水原町公民館長）

島原

庵原健

愛は永久に強しと信じかくれキリシタンにかくれて主をば仰ぎたりけむ

島原城のかくれマリアは手垢染み静に不滅の相にたたりかくれマリアをあがなひながらのわが歓き原城はつひに訪ふを得ざりき

島原のかくれキリシタンの主の前にて無縁をなげくわれとなりぬつ史を長み青ち磨けあひ東西の文化落ちつげる長崎に来し

（長崎市にて一首）

（羽茂町長）

新着録音教材紹介

◆雨にも風にもシリーズ

各三〇分四〇〇～八「糸くずの合唱」

中小企業の織物工場に働く良子は、使用者の無理解や、その設備の悪さのために事故で指を失ってやめようと思う。しかしみんなの手で改善しようと残ることにする。

四〇〇～九「社外工秀夫の場合」

代表的産業の中に伝って日が暮れ的存在の社外工として働く秀夫がその生活の中に夢をもち、高校進学をめざすが、それもあきらめなければならなくなった

四〇〇～十「希望をもって働こう」

このシリーズに出た、バス車掌、看護助手、電々公社員などに出席してもらって、いろいろ座談してもらう。

◆ことばと人間シリーズ

各十五分一七四～一「ことばのキャッチボール」

話し手ときき手の協力があってこそ、お互の気持が通じあう。ちぐはぐな会話の例をひいてよい会話の心構えを考える。

一七四～二「同一」

子ども相手の会話は時にむづかしい。よく耳を傾け、よくわかることばで話す努力が必要である。

一七四～三「謙虚な態度とは」

人間は同時に2つのことに集中できないという実験を通し、常に謙虚な心で人の話をきかなければならぬことを納得させる

一七四～四「人の話を聞くときは」

一つの話が伝わっていくうちに内容は大変に変ってしまうという実験を通して、人の話を聞く心構えを考える。

一七四～五「絞切型の判断」

ことばは決して事実そのままを表現できないという実験により、一般的な型にはまった判断の危険さを納得させる。

一七四～六「ことばで価値をきめる」

日常生活において、宣伝や評判、肩書きで物や人の価値をきめ込む場合が多い。実物を確かめないで下す判断、盲同的な意見の危険性について反省する。

（以下次号）

都市公民館の将来 ①

関係施設機関との関連

公民館の活動形態を育てる

小千谷市公民館長
広川利兵衛

公民館運動の発展は、戦後二十年近くなって、ようやく軌道に乗った観があるけれども、特に中小都市すなわち農村都市公民館においては、未だ幾多の複雑困難な問題をはらんで現在に至っているしまた将来も各種の考えなければならない問題点が沢山あるように思われる。私は、これらの点の中から、二三現実の問題について述べてみたい。

㊀、公民館は社会教育の実施機関であることは明白である。しかるに最近中小都市の中には、社会教育の行政機関とその実践機関との混同の傾向が現われ来つつあることである。もちろんこの両者は表裏一体となって、その都市の社会教育を推進すべきであることには異論ないが、ここに公民館長に例をとってみても、その都市の教育委員会の職員の兼任風潮が現われている。こんなことで一体いいのであろうか。公民館運動を強力に推進するためには、あくまでもこれは切り離して考えてもらいたいものである。そうでなくてさえ、公民館の影がうすくなっている折柄、館長が教委職員の兼任の如きは、その都市の社会教育に対する情熱と理解をうたがいたくなる。

㊁、最近、県下の各都市において厚生会館、市民会館等の建設が盛んに行われていることは、非常に喜ばしくまた望ましい現象であるしかるにこれが建設にあたって、その地の公民館の施設並びに運営と、よほど事前に連絡協調をはかってかからないと、むしろ公民館運動の後退をきたすおそれのあることである。なかには、公民館はどこかの隅に追いやられて、会議の貸席以外に用事のないような存在になりはせぬかを憂うるものである。総合会教育が強く呼ばれる時において、これらの建設にあたっては、むしろ公民館の仕事も活動もできる形態を包含する施設を、初めから計画されないものであろうか。

都市公民館の将来については、その地域の教育委員も社会教育委員も、これらの問題にもっとしんけんに取り組んで考究していただきたいことを強く要望したい。

× ×

〝都市公民館の将来〟は、広川館長の一文を皮切りに継続掲載する予定です。農村公民館にも問題はありますが、最近では特に都市公民館において運営上の種々の問題点が指摘されつつあるようです。この問題をさらに突込んで考えてみたいと思いますので御寄稿をお待ちいたしております。（編集部）

第五回関公連大会

参加者は至急お申し込みを

年々充実した大会となっている関東甲信越諸公民館大会が、9月3日4日の二日間船橋市中央公民館で開かれる。新潟地震のため、延期した本県大会にさきがけて行なわれるものだが、本県からも多参加するよう望まれている。

要項抜萃

○趣旨

前大会では地域社会の生活文化を向上するため公民館の経営のあり方を求めて研究討議を行ない現状の分析と将来への展望について多くの成果を収めたが、今次大会はさらにこの研究を深めるとともにとくに現代社会に即応し住民の生活をたかめるため、今後の公民館経営についての指標をうちたてようとするものである。

○研究討議題

「公民館は、住民のよりよい生活と、明るい社会を築くために、どのように経営すればよいか」

○申し込みは各市町村公民館あて同封の参加申し込み書により、本会事務局あて八月二十日まで必着申し込むこと。

× ×

雨天・晴天

8. くいちがいの巻　うつぎ・かず

われらのグループ

この道句会

新井市

●人声やこの道かへる秋のくれ　曽蕉

東本願寺新井別院境内にある、この色彩の句碑のこの道にちなんで、市制施行の年昭和三十年四月、この道俳句会が誕生した。合併前の旧新井町には「おもと」吟社、泉村には俳誌「いづみ」水上村には「あけぼの会」それぞれ町や村の俳人が、小さい実力をなしていた。この文化団体も町村合併の大道に乗って、一本化して現在に至っている。この七月で「この道」は九十七号を迎え、会員は六十名ほどになった。八月分兼題互選の結果が目下編集子のもとで整理されつつある。ささやかでも細く永く、市の文化面の一翼を担う努力は会員の意欲をそそり、十年になんなんとする連続中に、新潟日報俳壇の受賞者を出し中央一流俳誌の入選や、他雑誌特選にもしばしば入って、会員の句欲を引き立てている。会費年間二百円教委社教部の五千円の補助で、全員相互の奉仕が続くのである、毎月兼題及び句座を行ない、互選研讃し地元高校国語クラブの学生諸子も時折り交えて大会を開くこともある。高中小の先生、医師、会社員及び公務員、農商人、主婦等極めて多彩で百号時の記念大会の構想を今より話し合っている。

最近会員の中央誌の入選句

○佐渡竹の伺上げの今日も時雨れをり　渓人（ホトトギス一月号）

○鞦韆の頃ともなれば降る霰　雪岱（けやき一月号）

○濤音冬のふちどる野道はてしなく　白峰（けやき一月号）

○火つきよく燃えて桐棺たわいなく　初枝（玉藻一月号）

○雪のなきスキー場とはただの崖　タミ子（花鳥一月号）

○風花や臨時火われも保安隊　三乗（三月この道互選）

（新井市収入役・堀川徳右衛門氏発）

この欄への御寄稿をお待ちいたしております。紹介者はグループのなかの適任者でもよし、公民館職員でも結構です九百字以内。関係写真があったらそれも添えてください。掲載分には謝礼を差し上げております。（編集部）

公民館ひろいある記

農村に嫁がない……

最近各地で話題となっているのは「農村に嫁がない」ということである。農村の変貌から来る現象であろうが……。

数年前にこの問題をある雑誌社がとりあげ取材に出かけたことがある。

ところが「嫁はどこの家にもいる。話と現実はちがう……」と嘆いて帰ったということがある。若者に言わせると「オラの望む一級の嫁が来ない」とのこと。これに対して女性側から「私たちが二級三級ですみません。処で相手であるあなた方はいったい何級なんでしょうか……」と反撃されて言葉がなかったとか。農村評論家松丸氏は言っておられる。脚下照顧はいつの世にも、何処でも必要なこと。

近代化された農村に、農家に旧いカスを残さないということではないだろうか。新しい時代の生活を楽しみ願うのは誰も同様のことそう出来るように内部でその要素をもつことともに外部からいろいろとはたらきかけることが何より大切ではなかろうかと考えられる。

京ケ瀬村公民館で昨年度からはじめられた「若妻学級」はまさにこの観点に立ってのまことに適切な計画である。新しい農村の若妻（次代を育てる責任のある）に大いに伸びてもらいたいという着想である。開講式の盛況は正に壮観である。全村約三〇〇人の若妻が参加し、講堂はいっぱいである。数点の黒板は瞳のやり場のない有様、農村に嫁がないなんて言うことは何処の国のことなんだろうかと思われる情景。村内三小学校（京ケ瀬・前田・駒林）に分れて学習をつづけるが、年間五六時間の予定で「健康な母と子のために知識を身につける」をねらいとして系統的に進め、講義・見学と計画されている。子供の成長発達に関した学習は若妻として必要のもので願いと計画の一致から、出席もよく、若い瞳をかがやかし明るい顔で熱心に学習している。公民館で準備した"あゆみ"一資料綴・ノートを手に……。質疑応答も若いだけに活発である。

"カチャ九時過動が笑いぐさになるような"楽しみながら生産・生活の送れる農村。喜んで嫁の来るような農村・農家造りに歩めるよう公民館も更に手をさしのべて……。（又三郎）

ことば三昧

ダチャカン

土地には土地の歴史があり、風土がある。祖先よりうけつがれた土地特有のことばがある。従ってどんなにその土地に精通していても所詮は旅人に過ぎないのである。

新潟地方ではサ行音の「シ」音が「ス」音で発音されているということは知識としては承知していても、実際に「モウスって何だベェ」とやられると戸惑いとし、「モウス」が蕎子であることに気付くまでにはかなりの時間を要する。この場合「ス」音は単純に「す」ではなく「ス」＋α（環境）があるせいである。

つい一カ月ほど前、佐渡で「ダチャカン」の連発に悩まされた。「ダチャカン」が「ラチアカヌ」（だめだ）の約であることは理解として知っていても実際には何の役にはたないことである。こうなると自称ことば博士もまさにダチャカンである。

佐渡の「ダチャカン」は旧賀茂りの「ダチャカン」がおそらく能登から船で運ばれてきたものであろう。長野県の下伊那、愛知、岐阜、富山の砺波地方では「ダチカン」と言っている。（Q）

パンジーの花

水原白鳥

波うちて大きく割れし茨庭に黄色に咲けるパンジーの花
四層のビル軒並みに傾ける真下の歩道バイク埋もれり
国体の歓迎塔も色あせて傾きしビルと並び立ちたり
十日前天皇皇后も渡られし昭和大橋一瞬に落つ
神戸市の給水車より頂ける水なり家族と感謝して飲む

（下越出張所社教主事）

「わが家の家計簿」体験募集

貯蓄増強中央委員会
主　催　都道府県貯蓄推進委員会
日本放送協会

私たちの家庭の営みは，愛情と信頼の生活でありますが，反面経済生活でもあります。限られた収入の中で，くらしをより豊かにし，将来の安定をも心がける意味には，日々の生活態度や消費内容を反省して，より合理的な生活の設計を工夫することが大切です。それには，まずくらしの羅針盤として家計簿をつけましょう

私どもは，一人でも多くの方に家計簿をつけてていただき「豊かなくらし」に役立てたいという趣旨から，家計簿の記帳から得られた皆さんの貴重な体験談を募集いたします。

文章の体裁などにこだわらず奮ってご応募下さい。

○　募集内容

記帳経験の浅い人や，まだ年間の予算をたてるまでに至らない人も多いと思われますが，かなり高度の記帳をしている人もあると思いますので，応募の分類を次のように二つに分けました。

なお，使っておられる家計簿はどんな形式のものでもかまいません。

（第1部）
○家計簿をつけているが，まだ予算生活までにはいっていない人は，この部に応募して下さい。

（第2部）
○家計簿で予算をたて，これを実行している人はこの部に応募して下さい。

○　送り先

新潟市寄居町344　日本銀行新潟支店内
新潟県貯蓄推進委員会

○　原稿

1．本文は400字詰原稿用紙4枚以内
2．原稿には記帳経済年（月）数，および応募者との続き柄，年令，職業，就学状況）をそえて下さい。
3．本文のほかに次のものを添付して下さい。
第1部…最近1か月分の家計簿記帳の内容のわかる表。
第2部…3か月以上の予算と実績のわかる表（出来れば数年間の予算と実績のわかる簡単な表）また，栄養摂取計画，物品購入計画などあれば参考としてつけて下さい。

○　締切

昭和39年9月10日（木）（当日付消印あるものは有効）

○　賞金

	特選	秀作	佳作
第1部	2万円（1編）	1万円（2編）	5千円（40編程度）
第2部	3万円（1編）	1万5千円（2編）	7千円（40編程度）

○　発表

昭和39年11月5日（木）NHK放送により入賞者の氏名を発表します。

○　審査員

大浜英子（評論家，東京家裁調停委員，中央選管委員長）他

あとがき

地震の余波で本紙編集も思うにまかせません。そこで今月は四ページとし他日ぼんかいを期すことにいたしました。

×　×

皆さんのためにある伝統ある本紙です。どうか，どなたでも一度は御送稿くださるようお待ちいたしております。

×　×

運営審議員等公民館関係者の参考資料として手頃な，本紙特集"進展する社会と公民館の運営"B5版10ページ1部15円があります。御希望の向きは御一報ください。お送りいたします。

×　×

ことしも「職員長期講習」が近づきました。追って要項が配布されることと思いますが，多数参加されるようお待ちいたしております。